

KSSS 出張報告書 九州大学整形外科助教 横田和也

この度、2023年5月24日（水）から5月26日（水）の期間、韓国の Lotte Hotel Seoul で開催されました KSSS2023（The 40th International Congress of Korean Society of Spine Surgery）に参加させて頂きましたので、御報告申し上げます（図1・2）。個人的には久しぶりの国際学会となり、face to face（マスクなし！）で非常に活発な議論がなされ、刺激的な研修をさせて頂くことができました。日本からは波呂先生・海渡先生が invited speaker として発表され、素晴らしいご講演を聞かせて頂くことができました。また、CSRS2021の会長である Emory 大学 Dr. John Rhee による、頸椎変形矯正の手術適応に関するご講演も直接拝聴することができ、貴重な体験となりました。学会を通じて特に印象的だったのは、韓国の先生方の積極的な英語プレゼンテーションの姿勢です。韓国の若手医師については英会話が上手というイメージを漠然と持っていましたが、実際学会に参加しますと年齢に関係なく、どの世代の先生方も積極的に英語でコミュニケーションを取っておられ非常に感銘を受けました。韓国のみならずアジア各国の先生方が個性的な訛を持ちながらも、積極的にディスカッションを交わしていく姿を見て、勇気づけられた部分もありました。個人差はあると思いますが、ミャンマー・バングラデシュ・ベトナムの先生方の英語は特に訛が強く、様々なイントネーションの英語に慣れる必要があることも自覚させられました。日本の学会で日本人同士が英語でディスカッションする場面にほとんど立ち会ってこなかった私からしますと新鮮な光景に映りました。JSSR では日本語での演題発表がほとんどですが、国際的なプレゼンスを示すために、自分もより一層頑張らねばという気持ちにさせられました。一方で、KSSS 総会で Asian spine journal にインパクトファクターが付いていない点が問題視されているようでした（JCR2023 最新版ではインパクトファクターを獲得されました）。文献引用を増やしてくださいと呼びかけている内容を聞きますと、事情は国を超えて同じだなという印象を持ちました。アジア各国の Spine Society の President が一堂に会し、学会後の Welcome reception・Gala dinner では食事・お酒を交えて大きな盛り上がりを見せていました（図3）。韓国は言語的・地域的にも日本と似たアジアの国の一つであり、今後より一層交流を深める必要があると感じます。KSSS に関してはアジア各国を代表する脊椎外科医を多数招待し、積極的に国際交流を進めているという印象を受けました。KSSS の方々に用意して頂いた宿泊部屋の Welcome message からも、そのホスピタリティを感じることができました（図4）。Welcome reception 後には波呂先生、海渡先生、由留部先生、北村先生とご一緒し、今後の JSSR のあり方・国際化の必要性についてディスカッションできたことも若手の私にとって非常に有意義なものとなりました（図5）。今回は国際学会への参加ですが、普段接することのできない、日本国内の有名な先生方とお話する機会があったことも、私にとっては有意義な経験となりました。学会参加だけではなく、韓国料理（コプチャン・サムゲタン）（図6-8）を満喫できたことも素晴らしかったです。最後に、このような機会を与えてくださった JSSR の関係者の皆様に、この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。



図1
KSSS2023



図2
学会会場にて



図3
Gala Dinner での Brass Band



図4
KSSS からの Welcome message



図5
左より筆者・海渡先生・波呂先生・由留部先生・北村先生



図6
韓国の脊椎外科医と食事会



図7
コプチャン



図8
サムゲタン